

200 福音シリーズ A

バプテスマと 健康な教会生活

BAPTISM AND A HEALTHY CHURCH LIFE



I

バプテスマ

1. バプテスマの意味

旧約時代には、神を信じる人のしるしとして、割礼を受けるように命じられましたが、新約時代になると、イエス様を信じる者はバプテスマを受けることにより、自分が神の子どもであるというしるしをするようになったのです。バプテスマは、決して救いや罪を洗うための条件ではなく、バプテスマ自体が人を救える力があるわけでもありません。自分のクリスチャンとしての正体を公の前で明確にする聖なる礼典です。以下にあるように、初期教会でも、キリストを信じる者は皆バプテスマを受けたと記録しています。

(使徒 8:12) しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。

イエス様さえも、公での活動を始める前に、バプテスマを受けられ、私たちにその見本を示して下さいました。そのとき、天からイエス・キリストに対する神様からの公式的な声がありました。

(ルカによる福音書 3:21,22) 21 さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、22 聖霊が、鳩のような形をして、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

すべてのクリスチャンは、厳粛に神様の前で自分を顧みる機会としてのバプテスマを受ける必要があります。私たちは、イエス様を信じる時に個人としての信仰告白をしますが、バプテスマは公的な信

仰告白と言えます。男女が結婚式をせずに入籍だけでも、夫婦としての法的な問題はありません。しかし公での結婚式を通して、互いを信頼し愛するという誓いを交わすことを通して、2人の結婚はもつとかたいものとなるのです。

2. バプテスマが持つ象徴的意味

バプテスマとは、自分とイエス様が一つになるという、一致をあらわす象徴的な儀式です。つまり自分が救われたことを公であらわす一種の信仰告白です。以下の聖句にあるように、水により葬られる、つまり罪の自分が死に、またその死からキリストのように復活することをあらわすものです。

(ローマ 6:4) 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。

これをもう少し具体的に考えてみることにします。

(1) 罪の死・洗い・赦しを身をもって覚える機会

上記のローマ 6 : 4 にあるように、私たちはバプテスマを通して、葬られしたこと、つまりキリストと共に死んだことを体で覚えるのです。イエス様が十字架で私の罪を背負って、私の身代わりに死んだ時に、実は私もそのキリストとともに死んだことになったのです。そのことを頭だけではなく体をもって覚えることです。イエス様が罪のゆえに死んだことは、私の罪に対する死であり、それにより私は罪の刑罰から解放され、赦されるという恵みを受けました。つまり私たちは罪の奴隸から解放され、新しく生まれるようになったのです。これは、以下の聖句の「水の洗い」により罪からきよめられ

るという意味にもなるのです。私たちの罪がイエス様の十字架の死（血）によりきれいに洗わされ、きよめられるとも言えるでしょう。それを体で確認する式典です。罪は、十字架の血によりきよめられ、赦されるようになります。

(エペソ 5:26) キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり

(2) キリストと共に死に、復活する

(ローマ 6:5) もし私たちが、キリストにつぎ合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。

バプテスマは、キリストとともに死ぬだけではありません。キリストとともに死んだ者は、キリストが復活したように必ず復活し、永遠の天国で生きるようになるということです。復活への希望を持つて、この世を生きることはとても大事なことであり、バプテスマを通してその復活信仰を回復するのです。

3. バプテスマはどういう機会なのか

(1) 自分を顧みる機会である

救われてから今までの自分の信仰者としての生き方をふりかえてみるのも必要です。自分はイエス様をしっかり受け入れ、救われたことへの認識や確信をもっているのか、また罪から離れ、神様に向けて方向を変えているのか、さらにそういう罪の中に心が麻痺しているのではないのか、今までの自分を顧みて、きよい心が神に向かうようにする機会です。

(2) 自分の救いや神の子どもとしての身分を明確にする機会

自分がこの世から神様の子供になったことを再確認するということです。イエス様を信じる信仰によって無償で救われたことを新たに認識し、神様に感謝することです。救いはどんなものなのか、またその救いの完全性や確実性をしっかりと理解し、揺るがない救いの確信を持つことも大事です。以下の聖句にあるように、バプテスマとは、「キリストをその身に着た」ことだと書いてあります。自分の正体や神の子どもとしての身分を分かりやすく示す服のようなものだという話です。

（ガラテヤ人への手紙 3:27）バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。

(3) 自分に対しては死にイエス様に自分を完全にゆだねる機会

今まででは、まともに自分の人生の主人となれるような資格もない、罪深いあなた自身が、人生の主人となり、深い罪と欲の世界で苦しんできたことでしょう。その結果、欲や罪臭いのが多く、人生に真の喜びや恵みをもたらすことはありませんでした。しかし、今からはあなたを造り、あなたを救うために十字架で死んでくださった愛のイエス様を主人とし、その方にゆだねて人生を生きていきましょう。その方にしたがって生きるあなたの人生は、きよくて豊かな恵みにより益々輝くはずです。

（ガラテヤ人への手紙 2:20）私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

II

教会と信仰生活

新約聖書で「教会」という単語はイエス様が初めて使いました。これはギリシャ語「エクレシア」(εκκλησια)から由来しています。この単語はヘブライ語「カハル」のことです。教会は建物や組織ではなく、キリストを救い主として告白した人々の集まり(共同体)です。キリストはマタイ 18:20 節で、“二人でも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです”と話しています。

英語単語の「教会」(church)は、ギリシャ語「クリアロス」(κυριαλος)からきましたが、これは「クリオス」(神様)という単語から派生されたものであり、「神様に属した者ら」を意味します。つまり、教会は神様に属した者らの集まりです。この単語が英語の「チャーチ」(church)になったのです。

教会というのは、キリストの十字架と復活を通して神様が建てたものであり、神様の贈り物です。人間が作った共同体ではなく神由來の共同体です。当然教会の主人も三位の神様です。

(コロサイ 1:18)また、**御子（キリスト）はそのからだである教会のかしらです。**御子は初めてあり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。

(コ林ントへの手紙第一 12:27) **あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとりは各器官なのです。**

- 教会がキリストの体です。そしてキリストは、その教会の頭であり、聖徒たちはその体を支える各器官なのです。だから教会は頭であるキリストを中心にし、キリストの光栄をあらわすべきです。信者たちはキリストとつながり、互いに愛することでキリストの体を支える必要があります。

- 教会員はキリストの体であり、すべての教会員の多様性が認められながら同時に統一性を保つことが必要です。体は1つでもその体は多くの器官から構成され、それぞれの役割や機能が違うのです。そして個人の成長が教会の成長につながるので、一人の影響は大きいのです。教会員は喜びと悲しみ、幸せと不幸などを分かち合い、担い合い、分かち合うことが大事です。国籍、人種、年、性別、身分などによる違いはあっても、すべての教会員は平等性を持つべきです。
- 教会がキリストの体だという意味は、教会の頭であるキリストが死んだときに体の器官である私たちも死んだことであり、またキリストの復活と共によみがえるということになります。

1. 教会の主な機能や仕事

(1) 教会は神様に礼拝をする場所です

礼拝は神様に対する人間ができる最善の行為です。教会は救いを受けた人たちが、神様に礼拝をささげる場所です。神様をほめたたえ、感謝し、靈と真心をもって礼拝します。教会員は礼拝を通して神様と交わり、正しい道に歩む力を得るようになります。

(ヨハネ 4:24) 神は靈ですから、神を礼拝する者は、靈とまことによって礼拝しなければなりません。」

- ① 教会は人間中心の集まりではなく、神様を礼拝する主な目的を持って集まる場所です。礼拝はすべてより優先すべきであり、それに合わせて普段の生活も誠実に行うべきです。礼拝では、牧師や信徒の誰もが神様より目立ってはよくないのです。神様のみ名が

あがめられるべきです。特別なことがなければ、早めに礼拝にきて、祈りをもって準備するとよいでしょう。受身的になるのではなく、積極的に参加するようにします。

- ② 礼拝には、準備された心と端正な服で参加します。心も体も最善の状態で参加できるように前もって準備します。また、神様に礼拝するときは、ささげものを準備するのも、聖書的にもよいです。献金は、無理せずに感謝と喜びの心をもって、自分の信仰の範囲内でするのが大事です。毎月、または毎週、自分が決めた献金を自由に献金します。いやいやながら、または強いられてするのは、神には喜ばれないのです。
- ③ 説教や学びなどでは、積極的に参加しましょう。その日の学びや説教から1つでも実践できるようにすることです。頭で聞くだけ終わるのはよくないです。そのために、常に聖書学びや説教から生活に適用しようとする心が大事です。

(2) 教会は福音を伝えるところです

(マルコ 16:15) それから、イエスは彼らにこう言われた。全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。

教会がすべき使命の1つは福音を伝えることです。教会はあらゆる方法を用いて、神様の福音を延べ伝える役割を果たすべきです。そのために、時間や努力、献金を使います。伝道なしには、救われる人も生まれず、教会は活力を失い、衰退するようになります。私たちの教会では、多くの時間や努力、献金を福音伝道のために使っています。皆さんの奉仕や捧げ物は、魂の救いにつながっています。

(3) 教会は聖書を教えることも大事です

(II テモテ 3:16) 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

クリスチャンの成長の源は聖書のみことばです。みことばの中には、数えきれない成長のための栄養素が入っています。教会は聖書が基本であり、みことばが根幹となるべきです。みことばが各信者の生活に深く根ざすようにすることです。そのためには、聖書のみことばを教え必要があります。もちろん、教会では十分な聖書学びができることもあるので、各個人も自ら聖書のみことばにとどまる訓練をする必要があります。

(4) 教会では信者同士の交わりをする場所です

(ヘブル 10:24-25) 24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。10:25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

神様を中心とした教員同士の交わりも大事です。交わりを通して互いに励まし合い、愛し合い、学び合いができ、それぞれの信仰の向上をはかることができます。つまり、聖書の教えを実践する見本や証しは、他の人の信仰成長に非常に力強いものです。

(5) 教会は奉仕によってささえられています

(I ペテロ 4:10) それが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。

教会は利益集団ではなく、信仰と愛の仕えという奉仕に支えられています。それが持っている賜物を生かして、謙遜と愛の中で奉仕することが必要です。それによって教会という共同体が、健全に

立てられ、任された役割を果たすようになります。大事なことは、人間に対する奉仕ではなく、神様に対する奉仕として行うことです。その報いや賞賛は神様からいただくからです。教会には様々な賜物や才能を持っている人がいるはずです。各人の持っている賜物や才能を生かして奉仕することで、教会のコミュニティーや神の国は拡張するようになります。たとえば、教会には教える教師、食べ物を作ること、伴奏や音楽、掃除、音響、司会、歌、語学、日曜学校先生、お花など等のいろいろな奉仕があります。

(6) 教会は祈りをする場所です

（マルコ 11:17） そして、彼らに教えて言われた。「『わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。』と書いてあるではありませんか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしたのです。」

祈りは家であれ、道であれ、職場であれ、自分が存在する場所のどこでも可能です。教会だけで祈ることではありません。しかし教会で祈りがなくなるのは、最悪のことです。祈りのない信者が死んでいるように、祈りのない教会は死んだ教会です。つまり、神様が見えず、神の働きがない、単なる建物に過ぎないからです。神様がない教会には、数々の人間的な欲や争い、ぶつかりが出てきます。また悪魔やサタンが不自由なく教会をもてあそぶようになるのです。

III

信仰の試練と挑戦

信仰によって新しくなったあなたにも昔の弱さ、罪の習慣や悪い癖などによる誘惑や試練、葛藤が来るはずです。しかしそれはあなたを成長させる機会となるでしょう。神様はあなたが勝利できるようにと、必要な環境と力を与えてくださるでしょう。

(1) 誘惑に遭い葛藤しながら罪に引っ張られる

私たち人間の体は心とは違い、ついつい罪に反応してしまうのです。そうすると、心が痛み新しく築いたイエス様との関係に亀裂が生じたり救いの喜びが消えたり、神様との関係が薄れたかのように思つたりしてしまうのです。これに対して聖書はどう話しているのか、以下の聖句から考えてみましょう。

[ヨハネの手紙 第一 1:9] もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

確かに私たちが罪を犯してしまうと、心が痛み苦しくなります。罪の結果の恐ろしさや罪の汚さなどを知っているからこそ、昔とは違う罪への反応が生まれてくるのです。救いが取り消され、関係が切れたかのような思いは、あくまでも私たちの感情の推測であって、私たちの救いや神様との関係は絶対切れることはありません。私たちは再び罪の告白をして、神様との関係を回復することができます。神との関係や救いは、どんなものによっても切れない完璧なものだからです。悪魔のささやきに惑わされないようにしましょう。

(2) 周りの人からの攻撃や妨害

[ガラテヤ人への手紙 1:10] 今、私は人々に取り入ろうとして

いるのでしょうか。神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、人々を喜ばせようと努めているのでしょうか。もし今なお人々を喜ばせようとしているのなら、私はキリストのもべではありません。

私たちがクリスチヤンになると、いろいろな人や友人、家族などから、心配や反対の声が出てくることもあるでしょう。悪くなるのではないかという心配ですが、決してそういうことはありません。より立派になって罪や悪から離れ、愛豊かで健全な人間に変わることです。周りのこういう声にあまりに敏感になったり、怖がったり、過激に反応する必要はありません。むしろ愛をもって行動し、自分の正しさを示していくべきです。怖がって信仰から退いたり、恐れたりすることは、悪魔の狙いだからです。

(3) 悪魔からの攻撃

[ペテロの手紙 第一 5:8] 身を慎み、目を覚ましていなさい。
あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

[ヤコブの手紙 4:7] ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

今までのあなたは悪魔に所属して、その支配下にいましたが、キリストを信じて、あなたが悪魔の所属から、神様の所属へ変わったことによって攻撃をしてくる可能性があります。悪魔は、どんなことがあっても、あなたが神様にだけは近づかないように願っていたのに、裏切られたことによる恨みが、あなたの信仰への攻撃となってくるのです。しかし、あなたは恐れないで祈ってください。悪魔より強い神様が、あなたを守ってくださるからです。必ず悪魔は退くでしょう。

(4) あなたに来る試練や苦しみ

[コリント人への手紙 第一 10:13] あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。

あなたの人生にも試練や誘惑が、しばしば訪れるようになるでしょう。しかしどんな試練や苦しみがあなたに来るとしても、神様はあなたが必ず勝利できるように、助けてくださると約束しています。あなたが耐えられないか、またはあなたに役に立たない試練は最初から与えないということです。ただ、いざ試練が来た時には、脱出の道を備えたり、力を与えてくださったりして、私たちを勝利に導いてくださると約束しています。

誓 約 書

バプテスマは、主イエス・キリストにあって、罪に対しては死に神に対しては生きる者とされ、教会の枝として加えられるしるしです。バプテスマを受ける者は、以下のことを覚える必要があります。

1. わたしは、天地の造り主、生ける真の神のみを信じその方のみに仕えます。
2. わたしは、神の御子、イエス・キリストの十字架の贖いによって、自分のすべての罪が赦され救われることを信じ、そのイエス様を救い主として心の中に受け入れ、神の子供とされたことを信じます。
3. わたしは、聖霊の恵みに信頼し、キリストのしもべとしてふさわしく生きることを望みます。
4. わたしは、自分の最善を尽くして教会の礼拝を守り、教会員としての規則とその務めを果たし、教会の平和と一致のために努めます。
5. 私はキリストとともに十字架につけられたので、古い私が主人として生きるのではなく、キリストが私のうちの主としておられるように従います。

以上のことを行ってバプテスマに臨みます。

年 月 日

JOY CHURCH 教会員

署名：

バプテスマと健康な教会生活

Baptism and a healthy church life

2024年6月9日発行

著者 姜 錫在（カン スッヂェ）

発行 日本国際宣教会／JOY CHURCH

〒812-0045 福岡市博多区東公園4-5

電話 092(643)5534

印刷 株式会社 マイティ

E-mail joyskan@gmail.com

非売品